

シュプリンガー・ネイチャーとの共催で座談会「学問の挑戦と機会：若手研究者と SDGs を越えた先の未来を見据えて」を開催しました（2021年3月24日）

京都大学学術研究支援室（KURA）は、2021年3月24日にシュプリンガー・ネイチャーとの共催による座談会「学問の挑戦と機会：若手研究者と SDGs を越えた先の未来を見据えて」を開催しました（担当：[桑田 治 URA](#)、[園部 太郎 URA](#)、[小山田 彩 URA](#)）。

本イベントは、KURAのURA（リサーチ・アドミニストレーター）が、若手研究者の未来につながる挑戦的・融合的な研究活動の価値に共感する学外の多様な研究支援機関等に働きかけ、対話を通じてwin-winの“間柄”創りを行うというスタイルで運営する[【間:AIDA】プログラム](#)の一環として実施されました。当初は、フィリップ・キャンベル シュプリンガー・ネイチャー編集長（前ネイチャー編集長）を本学にご招待し2020年4月に開催する予定でしたが、コロナ禍の影響で延期となり、この度オンラインで日本と英国をつなぐ形で実施する運びとなりました。

当日の夕刻に開幕した本イベントではまず、モデレーターを務めていただいた[マリオ・ロペズ](#) 東南アジア地域研究研究所 准教授による趣旨の説明と本学の学際的な取り組み全般の紹介に続いて、ロンドンのキャンベル編集長から「Researching, communications and impacts for the UN Sustainable Development Goals」と題したご講演をいただきました。次に、本学を代表して4名の若手研究者（下記、発表順）から各々が情熱をもって取り組む研究について発表しました。

[ジュリー・アン・デロス・レイエス](#) 東南アジア地域研究研究所 特定研究員

[ハート・ナダブ・フォイヤー](#) 農学研究科 特定講師

[小川 敬也](#) エネルギー科学研究科 特定助教

[遠藤 寿](#) 化学研究所 助教

若手研究者の発表ごとにキャンベル編集長からの質問に一对一で応じる時間を設け、キャンベル編集長はもちろん視聴者の方にも若手研究者の取り組みをより深く知っていただく機会となりました。

イベントの後半では、アドバイザーとしてアントワーン・ブーケ博士（シュプリンガー・ネイチャー日本 代表取締役社長）と[河野 泰之](#) 京都大学副学長・国際戦略担当、東南アジア地域研究研究所 教授にも加わっていただき、ロペズ准教授の進行により、どのように研究成果を社会に発信することができるか、研究者と出版社の関り等について「座談会」形

式で討議が行われました。さらにオンラインで寄せられた参加者からの質問に対してもそれぞれの立場から回答していただきました。

本イベントには、日本と東南アジアを中心とする 20 か国以上から 215 名が参加しました。また、イベント終了後もその録画の希望者への限定公開を受け付け、YouTube 上での再生回数は 500 回以上にのぼっています。今回は KURA が企画し運営するイベントとしては初めての取り組みとして、Zoom ウェビナーに加えて YouTube 同時配信を併用することで、より多くの方に視聴しやすい環境を提供することができました。内容面でも事後のアンケートを通じて、参加者の方に「京都大学は学際的な研究をしている」や「若手研究者が活躍している」という印象を持っていただいたことが定量的に分かりました。このように、本イベントの趣旨に沿った成果が得られ、若手研究者の取り組みを国内外にアピールすることに成功したと言えるでしょう。

KURA の【間：AI DA】プログラムでは、今後も京都大学の若手研究者への支援のために、学外で研究支援に取り組む多様な組織や機関との対話を推進し、“間柄”の醸成を続けていきます。

イベント情報は [こちら](#)



イベント後の登壇者と運営メンバーの集合写真

(1 段目左から：小山田 URA、ロベズ准教授、河野副学長、遠藤助教、2 段目左から：田辺祐子氏（シュプリング・ネイチャー）、フォイヤー特定講師、小川特定助教、宮崎亜矢子氏（シュプリング・ネイチャー）、3 段目左から：キャンベル編集長、ブーケ社長、レイエス特定研究員、桑田 URA、4 段目：園部 URA)



【間:AI DA】チームの舞台裏①



【間:AI DA】チームの舞台裏②



ロペズ准教授の舞台裏